Sugiyama
人間になろう

学園報

2022.7.29 vol.172

CONTENTS

学園創立117周年を迎えて 01
令和4年度名誉教授称号記授与式 02
椙山女学園 令和3年度事業報告書 03
椙山女学園の財政 05
学園ニュース 09
理事会・評議員会の議題・報告事項 12
学園規定類の制定・改廃 12
人事・顕彰・訃報・NEW FACE 13
役員・評議員・組織 14
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名 15
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記 16

昨年度、一昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学園創立記念式典は、永年勤続表彰のみ開催していましたが、今年度は、記念式典（理事長挨拶、特別功労表彰、永年勤続表彰）をZoomと対面のハイブリッド形式で開催しました。

学園創立117周年を迎えて

理事長　椙山 泰生

椙山女学園は創立117周年を迎えました。今年も新型コロナウイルス感染症のため創立記念式典が開催できませんでしたが、69名の職員の方を令和4年度の永年勤続者として表彰できる運びとなりました。永年勤続の方々は、生活科学部の冨田先生、高等学校の谷口先生が40年、事務局では財務管財部の竹田部長が同じく40年、そして、お名前は省略いたしますが、35年が5名、30年が9名、25年が9名、20年が9名、15年が19名、10年が15名となっております。学園に対する長い間のご貢献、ご苦労様でした。皆様のおかげで、今日の椙山女学園があります。これからも、よろしくお願いいたします。

今年度は、学園の多くの学校で、所属長が交代いたしました。理事長である私も4月に着任したところですが、大学の学長、中高の校長、小学校の校長が、それぞれこの4月に交代し、フレッシュな顔ぶれとなりました。子供の数が減少するなか、難しいかじ取りをお願いしなければなりませんが、これまでの成果を継承しつつ、新しい時代への適応を進めていただければと考えております。

新型コロナウイルスについては、感染拡大から3年目を迎え、教育現場を含む社会の対応姿勢が少し変わってきたように思います。いうならば、防御の徹底から柔軟な対応へという変化です。1月以降のオミクロン株の蔓延と陽性患者の常態化が進みました。また、特に児童・生徒・学生の感染については、重症化のリスクがかなり低いことが明確になってきました。それとともに、「対策しつつ学びの機会を止めない」ことを重点とする方策へのシフトが必要になってきたように思います。感染を防ぐこれまでの学園の教職員、および保護者の皆様のご尽力に、敬意と感謝を申し上げつつも、今後は、状況に応じて柔軟に対応し、何よりも子供たちから学びと経験の機会を奪わないことを重視してまいりたいと思います。

この創立記念式典の場をお借りして、私から、学園の皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、学園報にも書かせていただいた、学園の変わらないものと変わるものについてです。

皆さんもご存じのように、1905年の創立以来、椙山女学園は、時代に応じて変化しつつも、一貫して「女性により高い教育の機会を提供する」ことを目指して、努力を続けてまいりました。明治40年当時の和風会の雑誌であった糸桜には「温雅・優美と活気・進取の校風」「実学の旗印」という記述があります。この優美さと進取の精神をあわせもち、実践を重視するという志向は、今日においても学風として引き継がれているものと考えます。また、人間性を重視した教育と「人間になろう」の理念は、50年以上前から一貫して掲げられてきたもので、本学の精神を体現した教育の根幹をなしております。これらは、「変わらないもの」です。

編集・発行　学校法人椙山女学園 事務局　〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町17番3号　TEL 052-781-1186　FAX 052-781-8831　URL https://www.sugiyama-u.ac.jp

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

一方、時代によって、「女性により高い教育の機会を提供する」ということの意味は変わってきたように思います。

学園創設当初である名古屋裁縫女学校設立の際、明治後期の日本で、時代が必要としている女性教育は、裁縫をはじめとする家庭での実践のための教育でした。しかしながら、椙山の歴史を見ると、時代に必要な教育の意味が、変遷していることがわかります。高等学校や女子専門学校の設立によって、実科（裁縫）教育重視から、教養教育重視へのシフトがありました。戦後、新制学校への移行に際しては、「良妻賢母」主義から、「一般教養重視」へ転換することが示されました。さらに、男女雇用機会均等法の施行以来、大学における学部増と仕事に直結する専門教育の重視へと舵が切られます。特に大学において、この傾向は顕著となり、より広範囲の専門性をカバーすべく、学部数を増やしていくことになります。

では、現代の椙山女学園が教育において担う役割とは何でしょうか。これについて、直接答えることは難しいと思いますが、私は少なくとも三つの方向性があろうと考えています。

一つめの方向性は、教育機関として社会課題の解決に実践として関わるという役割です。SDGsの17の目標に示されているように、世界には様々な社会課題が存在しており、その解決に関わっていくという実践そのものが教育機関として提供できる学修の機会になります。もちろん、自分たちの手で解決できることは限られています。ですが、課題を課題として認識し、その解決に関わることが、園児、児童、生徒、学生の人間性を育むことにつながります。

なかでも、女学園である本学は、その特徴を生かして、日本のジェンダーギャップの解消に関わることを意識する必要があります。女性が重要な意思決定に参画できていないという状況を、どのように教育から変えていけるかについて、我々のような女子教育に特化した学園は問われていると考えなければならないでしょう。

二つめは生涯を通じて学びに関わり続けることです。生徒・学生が学校に在籍して学ぶ間に、トータルライフデザインを意識してもらうような学びの機会を作っていく必要があります。女学園である私たちは、女性がライフコースを通して経験していくことを、学校にいる時代から意識したり、あるいは明示的に意識しなくても考えたり学んだりする機会を用意していくべきです。加えて、働く女性がライフコース全般を通して学び続けることを支援することにも、これからは取り組んでいく必要があります。単発のリカレント教育を実施するだけでなく、卒業生同士がつながりを持ってもらい、そこから新しい社会的価値を創造していってもらえるような取り組みも必要になってきます。

三つめは、前回の学園報にも書かせていただきましたが、人間の能動性を育むことです。近年、アクティブラーニングという形で、学校現場で様々な能動性を重視した実践が進められています。園児、児童、生徒、学生が受け身ではなく、能動的に学びに向かうよう設計された学習法を導入することで、学修者の教養、知識や社会的能力を育むことが狙いとされています。しかし、能動性・主体性をどのようにすれば育むことができるのかというのは難問で、アクティブラーニングを形として導入しても、学習における能動性や主体性が実現するとは限りません。また、椙大生を対象とした調査結果などを見ると、能動性は、椙山の学生のむしろ弱点であるという分析もいくつかの調査で共通した傾向となっており、私たちは、この点に対する取り組みを、強化しなければならない状況にあると考えます。

椙山女学園は、「人間になろう」を教育の理念としていることは、皆さんご存じのとおりです。「人間になろう」という言葉には、「ひとを大切にする」という言葉で示される人間尊重のヒューマニズムの精神という側面、「ひとと支えあえる」という言葉で示される人と人とのつながり・協調・連帯の重視という側面、そして、「自らがんばれる」という言葉で例示される学修者による能動的な取り組みを通した人間形成という側面の、三つの側面があります。この三つめの側面が、現代社会ではとりわけ重視されるようになってきています。生まれながらに受動的な人はいないのですが、社会生活の中で能動性を失ってしまうことも少なくありません。人間が本来備えている能動性を育む環境をいかに用意できるかが、問われています。

以上で述べてきた三つの方向性は、現時点ではあくまでも私の考えにすぎません。この方向性でベクトルを合わせていくことが可能か、できることは何か、修正すべき点はどこかなどについて、教職員の皆さんと、これから一緒に考えていくことができればと思っています。

令和4年度名誉教授称号記授与式

5月31日（火）、星が丘キャンパスにて令和4年度「名誉教授称号記授与式」を開催しました。今年度は、後藤宗理前学長、小川雅魚元教授、木村隆元教授、杉藤重信元教授、上嶋正博元教授、宮川充司元教授の6人が名誉教授となられ、黒田由彦学長から名誉教授称号記が授与されました。

学校法人椙山女学園 令和3年度事業報告書

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策への対応に努めながら、特に以下の4点の基本方針に基づき事業を行った。

① 女子教育の意義を明確にしながら、時代に合った人材育成を進めていく。
② 女子総合学園、女子総合大学のメリットを生かす一貫教育、連携教育を行い、教育並びに研究の充実を図る。
③ 少子化に対応できる積極的な経営を貫いて健全な財政を樹立し、経営の安定化を図る。
④ 教職員が協働することにより、一体感のある風通しのよい学園運営を行う。

以下、令和3年度事業報告の概要を掲載する。

学園に関する事項について

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組

大学では、教室定員を原則試験定員に減らし対面授業を基本としてスタートしたが、愛知県に緊急事態宣言が発令された5月から6月および9月から10月は、令和2年度の実績を生かして遠隔授業に切り替えた。高等学校・中学校においては、1人1台の端末を整備し、授業だけでなくホームルームや部活動にもICTの利用を広げた。小学校においては、緊急事態宣言下の9月に双方向型のオンライン授業を実施した。幼稚園、こども園、保育園においても、イベントはオンラインを活用しながら工夫して実施するなど、各学校・園においてコロナ禍での教育・保育を工夫して実施した。また、希望する教職員や学生、生徒および学園関係者に対して、ワクチン職域接種の機会を提供した。

大学中長期計画に基づく大学改革を推進

学長のリーダーシップの下、「椙山女学園大学中長期計画」に基づく「椙山女学園大学アクションプラン2021」に沿って、全学的に大学改革を推進した。本年度の主な成果としては、椙山女学園大学外部評価委員会規準に基づき、生活科学部、生活科学研究科、看護学部において第三者評価を実施したこと、2022年度から2026年度までの「国際化ビジョン」を作成したこと、危機管理体制や危機レベルごとの対応を示した「椙山女学園大学危機管理マニュアル」を制定したこと、さらに、オンラインでの就職活動に対応するため、機器の購入や専用ワークスペースの設置など学生が利用できる環境を整備したこと、「椙山女学園大学改革アクションプラン2022」を策定したことが挙げられる。

事務局

(1)申請・届出等

「学校法人寄付行為作成例(昭和38年3月12日私立大学審議会決定)」の改正(令和3年4月13日付け大学設置・学校法人審議会学校法人分科会決定)に基づき、本学園寄付行為を一部改正するため、文部科学大臣に学校法人椙山女学園寄付行為の変更認可申請書を提出し、令和4年2月28日付けで認可された。

(2)行動計画

各課において学園の事業計画、学園の事業に関する中期的な計画および大学改革アクションプランなどを踏まえた年単位の行動計画を策定した。

(3)IRに関する諸活動

大学IR室では、1年生に対して4月に「大学教育及び大学生活に対する意識調査(新入生用)」を、11月には全国の24大学が共同で行う「ALCS学修行動比較調査」を実施し、大学運営会議を通じて各学部教授会へ調査結果の概要を提示した。大学教育および大学生活の効果測定の指標となる「学生総合満足度調査」は、4年生を対象に卒業式に実施した。また、「大学IRレポートVol.3」を発行した。

(4)人事・労務に関する諸活動

事務局SD委員会の研修会については、事務職員を対象にオンデマンド形式で実施した。また、大学に勤務する非常勤講師について5年を超える雇用を可能とする就業規則の一部改正等や有期雇用者の育児休業・介護休業取得要件の緩和を行った。

(5)財務に関する諸活動

各キャンパスの空調機の更新、トイレの改修工事、大学図書館の天井耐震工事などに加え、山添キャンパスグラウンドの雨水排水対策設計業務などを行った。大学図書館の天井耐震工事は、私立学校施設整備費補助金を、高等学校・中学校のトイレ改修および教室空調機の更新工事では、愛知県私立学校施設設備整備費補助金を獲得したほか、各学校において新型コロナウイルス感染症対策などのための各種補助金を獲得し、それぞれの事業に対応した。

(6)施設設備に関する諸活動

星が丘キャンパスでは、国際コミュニケーション学部棟トイレ改修および事務室移転工事、現代マネジメント学部棟1階トイレ改修工事などを行った。日進キャンパスでは、5号棟空調機や屋外照明器具増設工事を実施した。山添キャンパスでは、高等学校・中学校校舎トイレ改修、GHP空調機更新、剣道場空調機設置、和風館床の全面改修にかかる工事を実施した。

(7)広報活動

学園および各学校のWebサイトのリニューアルを検討した結果、令和6年度公開でリニューアルすることが決まったため、新サイトが公開されるまで現行サイトを安定的に運用していくこととした。また、SNS(Twitter、Facebook、LINE)による情報発信に加え、Instagramの運用も開始した。

保育園

令和3年度事業計画に示した4つの保育方針である①健康な心と体、②人間関係力、③自己発揮、④豊かな心の育ちに沿って保育を進めた。また、衛生管理や換気、登降園の送迎、園児や職員の健康管理、行事、来園者への対応について、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行った。

大学に関する事項について

教育事業

学園の教育理念「人間になろう」を具現化する1年生の必修科目「人間論」は、「自校教育」「大学での学び・キャリア教育」「学問的人間論」の3つを基本的枠組みとしており、星が丘キャンパスでは学部を越えたクラス編成で実施している。令和3年度はコロナ禍により、一時的に遠隔授業に切り替えたが、対面授業を基本として実施した。

キャリア教育としては、教養教育科目「女性とキャリア」領域に「仕事学入門」「ライフデザイン」「ピア・サポート理論と実践」などの10科目を、学部教育においてもキャリア関連科目を配置している。

FD活動については、学生に対する授業評価アンケート調査、教員の自己点検を実施した。また、コロナ禍の影響が続くなか、「LMSの活用について」というテーマで、FD研修を実施した。

学生生活支援

奨学金制度については、椙山女学園大学同窓会奨学金、椙山女学園同窓会奨学金、経済的な理由により修学困難となった学生に対しては、椙山女学園大学貸与奨学金などにより、経済的負担軽減を図った。また、コロナ禍により、世帯収入の減少やアルバイトができなくなった学生について速やかに学資を支援するための国の給付金「学生等の学びを継続するための緊急給付金」を受給し、経済的に困窮している学生に給付した。

学生の健康管理は医務室が中心となり、定期健康診断の実施や学校医および保健師による健康相談などを行った。メンタル面の支援は、公認心理師の資格を持つ7名のカウンセラーが2つのキャンパスの学生相談室に交代で常駐し、コロナ禍においても、電話相談やオンライン相談を用いて対応した。

就職支援・キャリア支援については、キャリア育成センターがキャリア教育とキャリア支援の2つの側面から学生支援を行った。令和4年3月末の本学就職希望者に対する内定率は98.5%であった。また、オンライン環境を用意したフルクローズ型ワークスペースを設置し、オンライン就職活動の支援環境を整えた。

研究支援

大学改革および教育の質保証に資することを目的とした大学活性化経費は、第1期では16件、第2期では4件を採択し、大学の諸活動の活性化を目指した。科学研究費助成事業では、継続・分担を含め全体で計117件の研究が採択された。

国際交流

新たに令和4年度から5年間の7項目にわたる「国際化ビジョン」を策定した。海外留学については、文部科学省からの令和3年6月15日付の通達により、「大学間交流協定等に基づく1年間(実際の派遣期間9か月以上)の海外留学プログラムの再開」の許可がおりたため、「椙山女学園大学渡航基準」を策定し、派遣交換留学について再開した。

学術情報

新型コロナウイルス感染症対策として中央図書

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金
学園行事予定・編集後記

館に自動貸出装置1台を新設した。また、EBSCOディスカバリーや外国雑誌の利用環境の改善、電子書籍やオープンアクセスブックの利用環境整備を行った。

社会貢献・連携事業

社会連携センターの行動目標・行動計画に基づき、地域・企業などからの連携の調整を進めるとともに、教員の連携活動に関するアンケートを実施して学内の連携実績の蓄積を行った。連携協定については、コロナ禍により新たな協定締結の検討には至らなかった。日進市との連携講座や東山総合公園との連携イベント、東山遊園株式会社との連携協定に基づいた星が丘テラスでのクリスマスイルミネーションの制作などはコロナ禍においても実施した。

高大連携として、私立清林館高等学校と新たに高大連携協定を締結し、全体としては8高等学校、1団体と拡充した。連携協定校の生徒、保護者を対象に、大学見学会や模擬授業、出張講義などを感染症対策に十分配慮した上で実施した。

そのほか、社会連携センターにおいては、公共団体や民間企業と連携した講座の実施、臨床心理相談室においては地域の方への心理相談を行った。

学生募集・入学試験

受験生への告知として、雑誌・交通・新聞・インターネットなどの各種媒体およびテレビCMに広告掲載を行い、資料請求件数は令和2年度より増加した。大学展や進学説明会、出張講義、大学見学、高校訪問などの広報活動も感染症対策を講じた上で実施したが、令和4年度入試の結果は、学部1年次全体の入学定員充足率は91.0%に留まった。

管理運営

本学における内部質保証推進体制の見直しを行い、大学における教育、研究、社会貢献の諸活動についてPDCAサイクルを機能させ、恒常的な改善を図り、その質の向上を継続的に推進することを目的とした、椙山女学園大学内部質保証推進機構の設置を構想し、関係規準等の準備を進めた。また、令和2年度の大学評価（認証評価）の結果を受け、学外の第三者による外部評価をスタートした。

高等学校・中学校に関する事項について

教育活動

教科指導では、基礎学力の定着、家庭での学習習慣定着のため、タブレットなどICTツールを活用した学習動画や課題などの配信を行い、双方向の学習環境の整備に努めた。また、高等学校・中学校とも外部業者による学力推移調査を実施し、担任・教科担当者へ調査結果を還元し、学習指導に活用した。国際交流に関する語学研修プログラムはコロナ禍のため実施できなかった。併設大学管理栄養学科や名古屋中央卸売市場北部市場、老舗仕出し料理店と連携した食育の取組や、図書館を活用した調べ学習は引き続き実施した。また、ICT教育の充実に向け、機器の導入と活用法の定着を推進した。

生活指導

日常的に校内外のマナー指導を行った。また、「椙山女学園中学校・高等学校いじめ防止対策推進委員会」を開催し、問題の解決に努めた。

進路指導・キャリア教育

高等学校では併設校・指定校推薦で進路を決定する生徒の割合が高いが、大きく変化しつつある大学入試について認識しつつ、本校生徒の実情に則した対応を念頭に置き、高校3年生のみならず、低学年からの進路指導を行った。

キャリア教育の取組としては、高校1年生を対象に、職業適性・学問適性診断を実施するとともに、併設大学のキャリア育成センターとの連携のもと、高校2年生を対象としたキャリアセミナーを実施した。

入学試験・募集対策

学内外における入試・進学相談を広報委員・総務会が中心となり実施した。入試結果を踏まえた上で、次年度に向けた生徒募集対策を検討した。なお、令和4年度高等学校一般入試において、昨年度に引き続き5教科の全問マーク問題を実施した。

小学校に関する事項について

教育活動

学力の基礎をなす国語・算数を始め、他の教科・領域も協同的な学び合いを導入し、学力の向上とともに、児童の自ら学ぶ意欲を高め、学びのコミュニティとしての学級の発展も図った。また、ネイティブ講師による英語学習を毎日少人数で全学年実施した。国際交流として計画していた、オーストラリアのパース郊外のホームステイとブリスベン郊外の私立学校での4週間のターム留学は、コロナ禍のため中止となったが、校内での対面学習とオンラインでの観光やホームステイを併用した「ハイブリット型国内英語研修」を実施した。また、情報教育を通じてのプレゼンテーション能力向上や、ドローンを含むロボットプログラミング学習を実施した。「椙小・名フィル共演コンサート」も感染症対策を徹底して開催した。9月の緊急事態宣言下では、全児童にオンライン授業を実施し、児童への授業の補償をした。

椙山女学園アフタースクールでは、学童クラブ、新たな学びを展開するクリプトメリアンセミナーおよびスペシャルプログラムを実施し、多くの児童が参加した。

生活指導

全校での指導の一貫性を図るため、挨拶、言葉遣い、制服の着こなし、給食指導、道路や乗り物内でのマナーなどの生活指導における標準化を継続して行った。

併設大学人間関係学部との連携から導入したスクールカウンセラーがケースカンファレンスに参加するようになり、教育相談活動の充実や児童の健全育成に役立った。

保護者・地域との連携

PTA活動の中に、既存の幹事会とともに、保護者が主体的に学校づくりに参加、協力する「椙小パパの会」があるが、コロナ禍により活動を縮小した。

また、地域から親しまれる学校をめざして社会を明るくする運動へ協力し、地域と連携した活動を広げている。

入学試験

入試広報については広報課と連携し、Webサイトやパンフレットなどによる広報活動を行った。Instagramでの発信も行い、学校説明会やAO型入試説明会、入試説明会は、動画配信で行った。

幼稚園に関する事項について

教育活動

令和3年度事業計画に示した次の4つの教育方針（①「健康な心と体」②「自己発揮」③「人間関係力」④「道徳性」）に沿って教育を進めた。さらに、「運動」「食育」「人間関係」など7つの分野別に立てた教育目標に沿って指導計画を作成し、実践した。また、令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、動画配信などWebサイトによる保育も行った。

安全管理・保健管理

安全計画・危機管理マニュアルを見直し、改善を図った。地震、火災などの避難訓練を年間10回以上実施し、その内、不審者侵入時訓練においては、千種警察署から指導・助言を受けた。また、園児に危機管理教育を行うとともに、教員研修を行った。新型コロナウイルス感染症対策については、行政や園医の指導を踏まえて細やかに行うとともに、れんらくアプリを利用して保護者と随時連絡がとれるようにした。

保護者との連携

保育参観、保育参加、個別懇談会、希望者懇談会などを実施し、担任と保護者の交流を深めた。

地域への開放・発信・連携

WebサイトやInstagramに園の行事や幼稚園の教育活動をできるだけ多く写真をつけて掲載し、地域に紹介した。また、子育て講演会は、地域の方へも参加を呼びかけ開催した。

こども園に関する事項について

教育活動

次の4つの教育方針（①「健康な心と体」②「人間関係力」③「主体性」④「自己表現」）に沿って教育・保育を進めた。その際、養護（「生命の保持」「情緒の安定」）と教育（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）の分野別に立てた教育・保育目標に沿って指導計画を作成し、それに基づいて実践した。

安全管理・保健管理

安全計画・危機管理マニュアルに基づいた訓練を実施し、評価・反省を行い、改善を図った。地震、火災に備えた避難訓練のほか、不審者侵入時訓練も含め、年間15回を超える避難訓練を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策も実施した。

保護者との連携

クラス懇談会（紙面およびZoom）、保育参加、個人懇談会、希望者懇談会を実施し、担任と保護者、保護者同士の交流を深めた。園だより、クラスだよりはメールによる配信を行い、保健だより、給食だよりはWebサイトに掲載し、園児の様子を伝えた。

地域への開放・発信・連携

Webサイトに園の行事や教育・保育活動をできるだけ多く写真をつけて掲載し、地域に紹介した。また、西山学区幼保こ小連絡会に参加し、教育・保育について情報交換を行った。

椙山女学園の財政 （令和3年度決算及び令和4年度予算について）

令和4年度予算は令和4年3月25日、令和3年度決算は令和4年5月20日開催の理事会でそれぞれ承認されましたので、その概要を報告いたします。

Ⅰ　令和3年度決算について

1　令和3年度決算概況

令和3年度決算については、図表1～3をご覧ください。令和3年度は、主に大学図書館の天井耐震工事、文化情報学部メディア棟の空調機更新、国際コミュニケーション学部棟・現代マネジメント学部棟・山添キャンパス高等学校・中学校校舎のトイレ改修工事、その他各種改修・更新工事等による結果が決算の各種指標に表れています（金額は、千円未満を四捨五入したことにより集計額に誤差が生じています）。

2　事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度の活動に対する事業活動収入及び事業活動支出の内容を経常的及び臨時的収支に区分してそれぞれの収支状況が把握できるようにする計算書です。継続的に保持する資産としての基本金を組入れた後の収支の均衡の状態を明らかにして、学校法人の永続的な維持に資する指標です。

令和3年度と令和2年度との比較表は、図表1のとおりです。

教育活動収支では、教育活動収入計が、106億80百万円となっています。各学校・園の学生等数は、学園全体は314名の減少となり、学生生徒等納付金は3億3百万円の減額となりました。一方、経常費等補助金では、大学経常費等補助金の減額率の緩和、大学修学支援新制度の対象者の増加等により増額となりましたが、教育活動収入全体では、前年度と比較し1億94百万円の収入減となりました。教育活動支出計は昨年度比で1億87百万円減額の100億46百万円となりました。新型コロナウイルス感染対策による規制の緩和等により光熱水費等の増加があった一方、前年度には大学での修学支援金の支出が約3億円あったことが減少の主な要因です。これらにより教育活動収支差額は6億34百万円の収入超過となり、前年度との比較では6百万円の減少となりました。

教育活動外収支では、受取利息・配当金による収入と借入金等利息による支出との収支を図り、教育活動外収支差額は2億36百万円の収入超過と、前年度と比較して39百万円増加しました。

これにより、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、8億71百万円の収入超過となり、経常的な収支バランスは健全であるといえます。

特別収支差額では、37百万円増加の9百万円の収入超過となりました。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は前年度に比して70百万円増加の8億80百万円の収入超過となりました。ここから基本金組入、取崩しを行った結果の翌年度繰越収支差額は7億10百万円改善し、45億86百万円の支出超過となっています。

3　資金収支計算書について

資金収支計算書とは、事業活動収支項目に積立金や借入金等の外部資金を加えて、当該会計年度の諸活動に対応する全ての資金の収入・支出を明らかにし、支払資金の収入・支出の顛末を明らかにする指標です。

令和3年度と令和2年度との比較表は、図表2のとおりです。

資金収支上の科目として、収入の部では、借入金等収入、前受金収入およびその他の収入があり、支出の部では、借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出、資産運用支出およびその他の支出があります。前受金収入は、次年度の収入になるものを今年度に計上するもので、次年度入学生の入学金等が該当します。その他の収入は、施設・設備等の多額の支払資金に充てるために積み立てた特定資産からの取崩収入、前年度の退職金財団収入等の未収入金収入等です。施設関係支出は、土地、建物等不動産取得に要した資金が計上されています。設備関係支出は、備品、図書、ソフトウェア等不動産以外の学園の資産となる資産取得に要した資金が計上されています。資産運用支出は、特定資産に充てる資金が計上されています。

令和3年度では、施設関係支出においては大学図書館天井耐震工事等により前年度比で59百万円増加の2億66百万円の支出となりました。設備関係支出においては、令和2年度には大学の学生支援システム再構築等があったことから、1億22百万円減額の2億48百万円となりました。

その結果、翌年度繰越支払資金は41億93百万円となり、前年度と比べて2億89百万円減少しています。

4　貸借対照表について

貸借対照表は、会計年度末時点での資産・負債・基本金等の学園の財産状況を表す指標です。

令和3年度末時点での貸借対照表の概要は、図表3のとおりです。

資産総額は、486億50百万円で前年度末に比べて9億8百万円増加しています。固定資産は、大学図書館天井耐震工事、文化情報学部メディア棟の空調機更新、国際コミュニケーション学部棟・現代マジメント学部棟・高等学校校・中学校校舎のトイレ改修工事、その他各種改修・更新工事で資産を増加させましたが、主に建物の減価償却により資産が減少し、結果、有形固定資産では5億7百万円の減少、特定資産は減価償却引当特定資産、キャンパス整備準備特定資産への組入れなどにより17億36百万円の増加となりました。流動資産は、現金預金の減少などにより2億87百万円の減少となっています。

負債の部は、長期借入金、短期借入金は0円となっていますが、退職給与引当金、未払金の増額等により28百万円の増加となり、純資産の部は8億80百万円増加の437億29百万円となりました。

図表1 令和3年度事業活動収支計算書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

単位：千円

科目		部門	令和3年度決算	構成比率%	令和2年度決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,196,184	75.1	8,498,739	△ 302,555
		手数料	133,274	1.2	139,888	△ 6,614
		寄付金	55,761	0.5	32,211	23,550
		経常費等補助金	1,902,405	17.4	1,800,732	101,673
		付随事業収入	155,265	1.4	138,754	16,511
		雑収入	237,588	2.2	263,988	△ 26,400
		教育活動収入計	10,680,477	97.8	10,874,311	△ 193,834
	事業活動支出の部	人件費	6,387,843	58.5	6,361,034	26,809
		教育研究経費	2,933,914	26.9	3,184,851	△ 250,937
		（内）減価償却額	869,217	8.0	896,384	△ 27,167
		管理経費	721,865	6.6	687,636	34,229
		（内）減価償却額	85,240	0.8	87,141	△ 1,901
		徴収不能額等	2,516	0.0	0	2,516
		教育活動支出計	10,046,139	92.0	10,233,520	△ 187,381
		教育活動収支差額	634,338	5.8	640,791	△ 6,453
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	236,370	2.2	196,958	39,412
		その他の教育活動外収入	0	0.0	0	0
		教育活動外収入計	236,370	2.2	196,958	39,412
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0
		教育活動外支出計	0	0.0	0	0
		教育活動外収支差額	236,370	2.2	196,958	39,412
		経常収支差額	870,708	8.0	837,749	32,959

単位：千円

科目		部門	令和3年度決算	構成比率%	令和2年度決算	差異
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	9,607		0	9,607
		その他の特別収入	81,013		74,663	6,350
		特別収入計	90,620		74,663	15,957
	事業活動支出の部	資産処分差額	81,213		101,799	△ 20,586
		その他の特別支出	0		0	0
		特別支出計	81,213		101,799	△ 20,586
		特別収支差額	9,407		△ 27,136	36,543
基本金組入前当年度収支差額			880,115		810,612	69,503
基本金組入額合計			△ 235,448		△ 184,728	△ 50,720
当年度収支差額			644,667		625,884	18,783
前年度繰越収支差額			△ 5,296,054		△ 5,933,302	637,248
基本金取崩額			65,112		11,364	53,748
翌年度繰越収支差額			△ 4,586,275		△ 5,296,054	709,779
（参考）						
事業活動収入計			11,007,467		11,145,931	△ 138,464
事業活動支出計			10,127,352		10,335,319	△ 207,967

注）構成比（%）は経常収入（教育活動収入計＋教育外活動収入計）を100とした比率です。

図表2　令和3年度資金収支計算書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

単位：千円

	科目	令和3年度決算	令和2年度決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,196,184	8,498,739	△302,555
	手数料収入	133,274	139,888	△6,614
	寄付金収入	65,717	53,333	12,384
	補助金収入	1,957,387	1,840,070	117,317
	資産売却収入	421,350	700,338	△278,988
	付随事業・収益事業収入	155,738	139,150	16,588
	受取利息・配当金収入	236,370	196,958	39,412
	雑収入	314,256	323,184	△8,928
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	462,257	483,675	△21,418
	その他の収入	1,719,534	1,835,698	△116,164
	資金収入調整勘定	△842,944	△858,368	15,424
当年度資金収入合計		12,819,122	13,352,664	△533,542
前年度繰越支払資金		4,481,353	5,097,625	△616,272
収入の部合計		17,300,476	18,450,290	△1,149,814

単位：千円

	科目	令和3年度決算	令和2年度決算	差異
支出の部	人件費支出	6,430,126	6,386,792	43,334
	教育研究経費支出	2,060,713	2,286,737	△226,024
	管理経費支出	636,714	600,495	36,219
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	265,541	206,421	59,120
	設備関係支出	247,760	369,609	△121,849
	資産運用支出	3,468,550	4,240,234	△771,684
	その他の支出	606,683	455,755	150,928
	資金支出調整勘定	△608,113	△577,107	△31,006
当年度資金支出合計		13,107,974	13,968,936	△860,962
翌年度繰越支払資金		4,192,502	4,481,353	△288,851
支出の部合計		17,300,476	18,450,290	△1,149,814

図表3　令和3年度貸借対照表（令和4年3月31日現在）

単位：千円

科目	令和3年度末	令和2年度末	差異
資産の部			
固定資産	44,080,980	42,885,468	1,195,512
有形固定資産	24,426,045	24,933,238	△507,193
土地	6,336,996	6,336,996	0
建物	13,592,171	14,015,702	△423,531
構築物	703,944	747,655	△43,711
教育研究用機器備品	1,529,285	1,566,775	△37,490
管理用機器備品	129,456	142,501	△13,045
図書	2,134,194	2,123,609	10,585
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	16,437,357	14,701,526	1,735,831
第3号基本金引当特定資産	2,213,000	2,213,000	0
退職給与引当特定資産	2,011,000	2,009,900	1,100
減価償却引当特定資産	5,100,000	4,100,000	1,000,000
各種課程履修費特定資産	60,059	57,157	2,902
施設整備・教育研究充実特定資産	56,597	49,634	6,963
キャンパス整備準備特定資産	6,800,000	6,100,000	700,000
教育振興基金特定資産	71,757	62,585	9,172
特別寄付金特定資産	48,474	35,311	13,163
施設設備充実資金果実特定資産	1,635	1,610	25
学園同窓会奨学資金果実特定資産	4,405	3,926	479
大学同窓会奨学資金果実特定資産	1,063	915	148
看護学部奨学資金果実特定資産	40,966	43,776	△2,810
学園研究資金果実特定資産	2,000	1,550	450
学園教育資金果実特定資産	20,825	16,851	3,974
その他の特定資産	5,577	5,311	266
その他の固定資産	3,217,578	3,250,704	△33,126
借地権	477	477	0
ソフトウェア	84,205	90,560	△6,355
電話加入権	3,204	3,204	0
有価証券	2,803,226	2,811,699	△8,473
長期貸付金	15,979	20,944	△4,965
保証金	310,486	323,819	△13,333
流動資産	4,569,168	4,856,373	△287,205
現金預金	4,192,502	4,481,353	△288,851
未収入金	359,268	357,891	1,377
販売用品	426	811	△385
貸付金	0	0	0
仮払金	0	0	0
前払金	16,971	16,318	653
資産の部合計	48,650,148	47,741,841	908,307

科目	令和3年度末	令和2年度末	差異
負債の部			
固定負債	3,705,036	3,670,651	34,385
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	3,705,036	3,670,651	34,385
流動負債	1,216,106	1,222,300	△6,194
短期借入金	0	0	0
未払金	591,795	560,648	31,147
前受金	462,257	483,675	△21,418
預り金	162,055	177,977	△15,922
負債の部合計	4,921,143	4,892,951	28,192
純資産の部			
基本金	48,315,280	48,144,944	170,336
第1号基本金	45,457,280	45,286,944	170,336
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	2,213,000	2,213,000	0
第4号基本金	645,000	645,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△4,586,275	△5,296,054	709,779
純資産の部合計	43,729,005	42,848,890	880,115
負債及び純資産の部合計	48,650,148	47,741,841	908,307

Ⅱ　事業活動収支計算書の年度別財務比率比較について

図表4は、過去5年間において大学を持つ他の法人と本学園との財務比率の比較を行ったものです。

財務比率の中で、特に重要な学生生徒等納付金比率、人件費比率、教育研究経費比率、人件費依存率、経常収支差額比率、教育活動収支差額比率についてグラフ化したものを図表5に示しています。

学生生徒等納付金比率は、75.1%と前年度から1.7%減少していますが、まだ高い比率となっており、経常収入が学生生徒等納付金に負っていることがわかります。人件費比率は、58.5%となっており、依然として同規模学校法人と比べて高比率といえます。人件費比率を下げることは重要な課題のひとつといえます。教育研究経費比率は、昨年度は奨学費支出の増加があったことにより1.9%減少していますが、前々年度との比較では0.5%増加の26.9%となっています。しかし、同規模学校法人と比べ依然低い比率であるため、改善が必要な課題となっています。

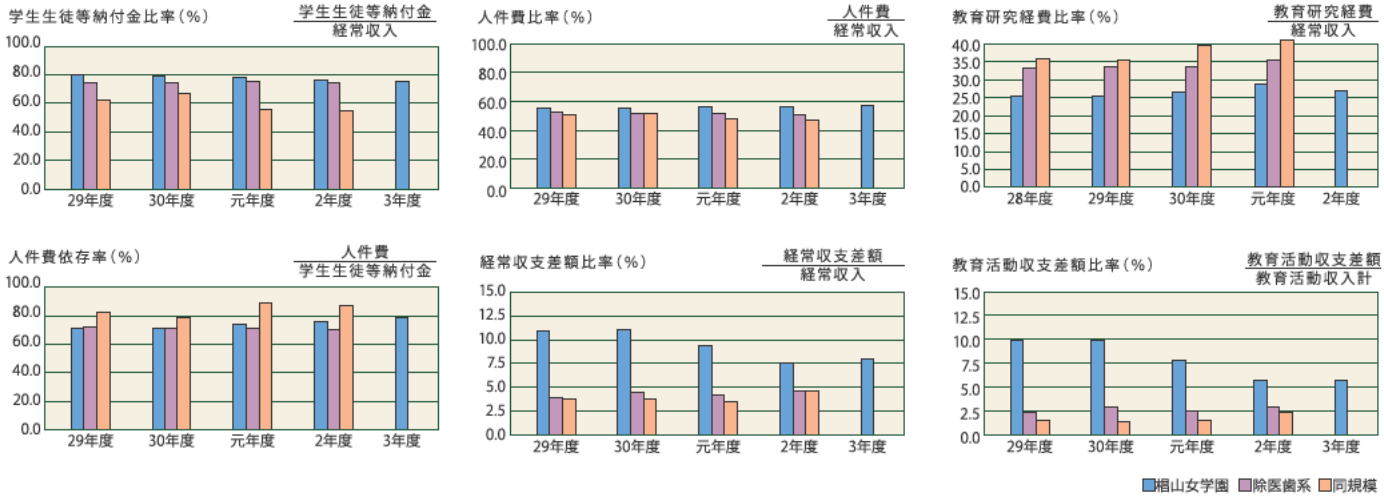
経常収支差額比率は、8.0%と前年度から0.4%増加し、教育活動収支差額比率は、昨年度と変わらず5.9%となっています。

図表4　事業活動収支計算書の年度別財務比率比較

	比率名称	算出式(%)	評価	法人種別	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
収入構成	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	ー	椙山女学園	80.5	79.1	78.2	76.8	75.1
				除医歯系	74.7	74.8	75.1	74.4	
				同規模	63.0	66.9	55.5	55.2	
	寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	△	椙山女学園	0.5	0.5	0.8	0.6	0.7
				除医歯系	2.3	2.1	2.1	2.3	
				同規模	3.0	1.6	1.5	1.8	
	補助金比率	補助金 / 事業活動収入	△	椙山女学園	13.4	15.0	14.1	16.5	17.8
				除医歯系	12.5	12.6	12.2	14.1	
				同規模	11.3	11.8	9.7	13.0	
支出構成	人件費比率	人件費 / 経常収入	▼	椙山女学園	56.6	56.2	57.3	57.5	58.5
				除医歯系	53.8	53.0	53.2	51.8	
				同規模	51.8	52.2	49.1	47.5	
	教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	△	椙山女学園	25.5	25.7	26.4	28.8	26.9
				除医歯系	33.3	33.4	33.5	35.2	
				同規模	35.8	35.3	39.8	40.8	
	管理経費比率	管理経費 / 経常収入	▼	椙山女学園	6.8	7.0	6.9	6.2	6.6
				除医歯系	8.8	8.8	8.9	8.2	
				同規模	8.2	8.3	7.3	6.9	
	減価償却額比率	減価償却額(教育+管理) / 経常支出	ー	椙山女学園	11.3	10.9	10.6	9.6	9.5
				除医歯系	11.9	11.8	11.8	11.7	
				同規模	11.0	11.8	11.0	11.1	
	借入金等利息比率	借入金等利息 / 経常収入	▼	椙山女学園	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
				除医歯系	0.2	0.2	0.2	0.1	
				同規模	0.2	0.3	0.2	0.2	
	基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	△	椙山女学園	2.1	9.2	28.3	1.7	2.1
				除医歯系	10.8	10.8	10.9	10.4	
				同規模	16.1	10.9	9.7	10.8	
収支バランス	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	▼	椙山女学園	70.4	71.1	73.3	74.8	77.9
				除医歯系	71.9	70.9	70.8	69.6	
				同規模	82.1	78.1	88.4	85.9	
	経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	△	椙山女学園	11.0	11.1	9.4	7.6	8.0
				除医歯系	3.9	4.5	4.2	4.6	
				同規模	3.8	3.8	3.5	4.6	
教育活動状況	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	△	椙山女学園	10.0	10.0	7.9	5.9	5.9
				除医歯系	2.4	3.0	2.6	3.0	
				同規模	1.6	1.5	1.7	2.4	

注1) 評価欄の評価については、一般的に次のとおりといわれています(「今日の私学財政」より)。　△:高い方が良い　▼:低い方が良い　ー:どちらともいえない
注2) 法人種別欄については次のとおりです。除医歯系:医歯他複数学部および医歯単一学部の大学法人を除く。同規模:学生生徒数5,000~8,000人の大学法人
注3) 基本金組入額は収入からの控除科目であるため、基本金組入率は支出構成指標としています。

図表5　事業活動収支計算書の年度別財務比率比較(図表4から一部をグラフ化)



Ⅲ　令和4年度予算について

令和3年9月理事会で承認された予算編成方針に基づき新規事業を査定し、経常費予算等と合わせて令和4年度予算を編成しました。

1　資金収支予算書について(図表6を参照)

収入の部では、学生生徒等納付金収入として80億76百万円を計上しました。手数料収入は1億45百万円、補助金収入は18億20百万円を計上しました。

支出の部では、人件費支出は64億13百万円を計上し、前年度より減額(2億34百万円減)としました。教育研究経費支出は、24億96百万円を計上し、前年度比で84百万円の増額としました。管理経費支出は、7億44百万円を計上し前年度比で9百万円の増額としました。施設関係支出では2億26百万円を、設備関係支出は2億55百万円を計上しています。

2　事業活動収支予算書について(図表7を参照)

教育活動収支差額は2億56百万円減少の△2億96百万円、教育活動外収支差額は3百万円増加の1億73百万円とし、経常収支差額は2億53百万円減少の△1億23百万円の支出超過となっており、経常的な収支バランスはやや悪化しています。また、特別収支差額では、54百万円のマイナスとなっています。

予備費を1億円計上することにより、基本金組入前当年度収支差額は、前年度と比較して2億89百万円減少の△2億77百万円となります。基本金組入額合計1億19百万円を差し引いた当年度収支差額は3億96百万円の支出超過となり、前年度繰越収支差額(令和3年12月3日補正予算時)62億7百万円を加えての翌年度繰越収支差額は66億3百万円の支出超過の予算となっています。学生数の減少等による影響は各指標の悪化に表れており、収支の均衡を図る上で、令和4年度も引き続き冗費の抑制等に努めて、決算時には収支均衡に近づける努力が必要になります。

図表6　令和４年度資金収支予算書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

単位：千円

科目		令和4年度予算	令和3年度予算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,076,146	8,170,378	△94,232
	手数料収入	144,570	154,928	△10,358
	寄付金収入	35,866	49,640	△13,774
	補助金収入	1,820,400	1,828,031	△7,631
	資産売却収入	50,001	416,001	△366,000
	付随事業・収益事業収入	147,890	158,969	△11,079
	受取利息・配当金収入	173,435	170,619	2,816
	雑収入	197,186	296,094	△98,908
	借入金収入	2	2	0
	前受金収入	449,540	446,945	2,595
	その他の収入	941,360	1,605,579	△664,219
	資金収入調整勘定	△613,919	△747,072	133,153
当年度資金収入合計		11,422,477	12,550,114	△1,127,637
前年度繰越支払資金		2,719,659	4,481,353	△1,761,694
収入の部合計		14,142,136	17,031,467	△2,889,331

単位：千円

科目		令和4年度予算	令和3年度予算	差異
支出の部	人件費支出	6,412,500	6,646,211	△233,711
	教育研究経費支出	2,496,232	2,412,648	83,584
	管理経費支出	743,871	735,232	8,639
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	225,510	304,561	△79,051
	設備関係支出	255,454	276,172	△20,718
	資産運用支出	1,500,199	3,406,458	△1,906,259
	その他の支出	594,982	601,237	△6,255
	［予備費］	400,000	500,000	△100,000
	資金支出調整勘定	△506,740	△570,711	63,971
当年度資金支出合計		12,122,008	14,311,808	△2,189,800
次年度繰越支払資金		2,020,128	2,719,659	△699,531
支出の部合計		14,142,136	17,031,467	△2,889,331

図表7　令和4年度事業活動収支予算書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

単位：千円

科目	部門		令和4年度予算	構成比率%	令和3年度予算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,076,146	76.7	8,170,378	△94,232
		手数料	144,570	1.4	154,928	△10,358
		寄付金	17,299	0.2	22,268	△4,969
		経常費等補助金	1,779,216	16.9	1,770,799	8,417
		付随事業収入	147,890	1.4	158,969	△11,079
		雑収入	197,186	1.9	225,608	△28,422
		教育活動収入計	10,362,307	98.4	10,502,950	△140,643
	事業活動支出の部	人件費	6,464,482	61.4	6,408,826	55,656
		教育研究経費	3,362,440	31.9	3,309,597	52,843
		（内）減価償却額	866,208	8.2	896,949	△30,741
		管理経費	831,656	7.9	824,678	6,978
		（内）減価償却額	90,280	0.9	90,941	△661
		徴収不能額等	1	0.0	1	0
		教育活動支出計	10,658,579	101.2	10,543,102	115,477
	教育活動収支差額		△296,272	-2.8	△40,152	△256,120
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	173,435	1.6	170,619	2,816
		その他の教育活動外収入	1	0.0	1	0
		教育活動外収入計	173,436	1.6	170,620	2,816
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0
		その他の教育活動外支出	1	0.0	1	0
		教育活動外支出計	1	0.0	1	0
	教育活動外収支差額		173,435	1.6	170,619	2,816
経常収支差額			△122,837	-1.2	130,467	△253,304

科目	部門		令和4年度予算	構成比率%	令和3年度予算	差異
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	2		7,527	△7,525
		その他の特別収入	69,768		94,038	△24,270
		特別収入計	69,770		101,565	△31,795
	事業活動支出の部	資産処分差額	123,838		120,421	3,417
		その他の特別支出	1		1	0
		特別支出計	123,839		120,422	3,417
	特別収支差額		△54,069		△18,857	△35,212
予備費（事業活動）			100,000		100,000	0
基本金組入前当年度収支差額			△276,906		11,610	△288,516
基本金組入額合計			△119,107		△285,318	166,211
当年度収支差額			△396,013		△273,708	△122,305
前年度繰越収支差額			△6,207,010		△5,933,302	△273,708
基本金取崩額			0		0	0
翌年度繰越収支差額			△6,603,023		△6,207,010	△396,013
（参考）						
事業活動収入計			10,605,513		10,775,135	△169,622
事業活動支出計			10,782,419		10,663,525	118,894

注）構成比（%）は経常収入（教育活動収入計＋教育外活動収入計）を100とした比率です。

学校法人会計の基礎知識

学校法人は、一般の営利企業と異なり、教育研究活動を永続的に進展させていくことを前提とした公共性の強い法人です。そのため、会計面でも、資本金という概念はなく、学校法人会計特有の基本金という概念が用いられています。学校法人の会計については、「学校法人会計基準（文部科学省令、以下「基準」という。）」の規定に基づき、監査や会計報告を行うことになっています。報告のために、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表およびそれらに附属する内訳表、明細表の作成が義務づけられています。

資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計のキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の諸活動に対応する全ての収支内容を明らかにするとともに、その年度の諸活動に関係はないけれども、当該年度中に現金での収支があった全ての内容を明らかにするためのものです。資金収支計算では、まず当該年度の活動に関する収支および当該年度に関係のない現金収支（前受金収入や前払金支出）を全て合計し、そこから当該年度に実際には現金の動きのなかったもの（未収入金収入や未払金支出等）を差し引くという流れで計算を行います。なお、資金収支計算書の「支出の部／翌年度繰越支払資金」は当該年度末の貸借対照表「資産の部／現金預金」と一致することから、資金収支計算書は貸借対照表の現金預金の動きを表しているといえます。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、企業会計の損益計算書に類似しているもので、当該年度中の事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにして収支の均衡状態を表すためのものです。損益計算書とは異なり、学校法人特有の会計処理である基本金組入を行うことが事業活動収支計算書の特徴です。事業活動収入から事業活動支出を控除し計算された基本金組入前当年度収支差額より、基本金組入額を控除することで当年度収支差額を算出し、収支の均衡状態を明らかにします。収支差額が長期的に収支均衡している状態が理想とされ、教育・研究の永続性を保つための指標となっています。

貸借対照表

その会計年度末（3月31日）時点における財産の状態（過年度からの累積）を前年度と対比して明らかにするもので、一定時点での学園の財政状態を示しています。科目としては、資産の部とその資金調達源を表す負債の部（借入金等）・純資産の部を対比させる形で表示します。事業活動収支計算での基本金組入額は、基本金の部へと蓄積されていきます。

「基本金」「基本金組入額」について

学校法人は、その諸活動の計画に基づき、校地校舎等維持すべき資産の更新・拡充に必要な資金を基本的に自前で用意しなければならず、それを維持できているかを財務的に把握する仕組みとして、維持すべき資産相当の金額を差し引いて収支差額を計算する基本金制度を採っています。基本金は第1号基本金から第4号基本金まであります。

第1号基本金：学校法人が設立当初に取得した固定資産（土地・建物・設備（機器備品や図書等））で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校の設置・既設の学校規模の拡大・教育の充実向上のために取得した固定資産の価額です。

第2号基本金：学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模拡大・教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額です。

第3号基本金：基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額です。この運用により生じた果実を各種奨学金等の原資としています。

第4号基本金：恒常的に保持するとして文部科学大臣の定める額で、1年間の支払に要する額の12分の1の額となります。

企業における資本金は出資者である株主の持分といえますが、基本金は基準で定められた一定の資産を学校法人自らが永続的に留保する金額であり、誰にも持分というものはありませんし、いったん組み入れた基本金は、一定の条件を満たさないと取り崩すことはできません。

「基本金」と「基本金引当資産」

貸借対照表の基本金は、同表資産の部に記載されている資産のうち自己資金によって購入されたものがいくら分あるかということを表しています。一方、資産の部／特定資産には「第2号（第3号）基本金引当資産」というものがあり、これらはそれぞれ基本金の部の第2号基本金及び第3号基本金の資金的な裏づけとなる積立預金等のことです。本学園でも第2・第3号基本金と同額の引当資産をそれぞれ保有し、基本金組入れを行う際は基本金と同額の資金を引当資産に増額しています。ちなみに、第1号基本金は資産の部の有形固定資産／土地・建物・備品・図書等に主に対応し、第4号基本金（運転資金額）は流動資産／現金預金の中に確保されています。

GAKUEN NEWS 学園ニュース

学園 森棟公夫特別顧問に特別功労表彰

学園創立117周年記念式典の場で、森棟公夫特別顧問に対して特別功労表彰を行いました。

森棟特別顧問は、2012年4月から学校法人椙山女学園理事長として10年間、椙山女学園大学長として6年間、学園の発展のため多大な貢献をされたことに対して、感謝状と記念品が贈られました。

学園 第1回人間講座を開催しました

椙山人間学研究センター

今年度の人間講座のテーマは、シリーズ"動物園を考える"です。その第1回は、5月20日(金)から29日(日)、オンデマンドによる映像配信にて開催しました。

講師に湯本貴和京都大学名誉教授をお迎えし、「なぜ、いま動物園なのか？」と題し、動物園の歴史、動物の展示方法、動物福祉、動物園の存在意義などについて講演していただきました。講演後、椙山人間学研究センター主任研究員の杉藤重信本学名誉教授も参加し、討論を行いました。

学園 第45回椙山フォーラム「腸活」を行いました

食育推進センター

6月15日(水)から6月29日(水)にかけて、食育推進センター主催の第45回椙山フォーラム「腸活」をオンデマンド映像配信によるオンライン講演会として開催しました。

はじめに、静岡県立大学食品栄養科学部助教の唐木晋一郎氏が「腸の中の脳ーからだの中の「内なる外」を考えるー」をテーマに講演。多細胞動物は上皮細胞(外皮)によって外部環境と内部環境が分かれ、安全な内部環境にさまざまな細胞が存在していること、その内部環境に危険な外界の物質を直接取り込まず、まずは体を貫いて作られた空洞である腸管で食物を消化してから内部環境に吸収することになったとし、「腸内環境は一見体内に存在するが、そこは外部環境であり「内なる外」である」と解説しました。さらに、腸には「腸の中の脳」といえる「腸管神経系」が存在し、消化管のさまざまな活動は腸管神経系だけの判断で行われていると紹介しました。そして、現代社会のストレスを抱えた私たちの「頭の中の脳」が腸の現場指揮官である「腸の中の脳」を混乱させ、過敏性腸症候群などの原因になると考えられるとし、「「頭の中の脳」は「腸の中の脳」の叫びに耳を傾けることが大切」と話しました。

次に、株式会社ヤクルト本社広報室学術・編集班課長の有馬直美氏は「腸から整えるカラダとココロ」と題し、脳と腸がさまざまなネットワークを通じて情報を交換し影響を与え合う「脳腸相関」について説明。長年、研究している乳酸菌L.カゼイ・シロタ株が、一時的な精神的ストレスに起因するストレス緩和や睡眠の質の向上に役立つ研究結果を紹介し、乳酸菌の持つ新たな可能性を示唆しました。

最後に、本学生活科学部准教授の及川佐枝子氏は「腸が喜ぶ食事」として、ヒトの腸には食物繊維などをエサとする腸内細菌叢(腸内フローラ)が棲息しており、ヒトの消化・吸収、排便といった腸管機能に加え、栄養代謝、防御機構、免疫機構に貢献している「ヒトと腸内細菌との共生関係」について解説。しかし、加齢や運動不足、ストレス、偏った食生活により、この共生関係が乱れ、腸内フローラのバランスが破綻すると、肥満やアレルギー、免疫力の低下、うつ病などの原因になるため、ヨーグルトや納豆といったビフィズス菌や納豆菌などを含む「プロバイオティクス」と、善玉菌を増やす作用のあるオリゴ糖や食物繊維などの「プレバイオティクス」を組み合わせた「シンバイオティクス」を、バランスのよい食事に上手く取り入れることを推奨しました。

視聴者からは「腸内環境が外界と知ってとても驚いた」「腸について改めて考えるきっかけとなった」などの声が寄せられ、腸の新たな見方を知り、腸の大切さを再確認する機会となったようです。

学園 学生サポーターが活躍しています！

歴史文化館

歴史文化館では、自校史教育の一環として学園の歴史を説明するための学生サポーター制度を導入しました。

現在、大学1年生から4年生までの9名が学生サポーターとして活動しています。自分自身が在籍する学校の歴史を学ぶことにより、学生が自分の出発点を見出し、自分の言葉で説明できるよう歴史文化館の職員一同もサポートを行っています。説明する学生、説明を受ける学生、お互いに椙山女学園の歴史に深く触れて欲しいと思います。

この機会にご来館いただき、学生サポーターによる学園の歴史の説明に耳を傾けてみませんか。

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

GAKUEN NEWS 学園ニュース

2021年度卒業生 進路・資格取得状況 最終報告

2021年度卒業生の進路・資格取得状況（就職率および合格率）の最終結果を報告します。

各学部、キャリア育成センターの手厚いサポート体制が大きく実を結び、昨年度に続き、良好な数値となっています。

就職率（2021年度卒業生）

98.5%

［就職内定者］ 1,286名

［就職希望者］ 1,306名

※就職率とは就職希望者数に占める就職内定者数の割合

教員・保育職実績

教育学部 全国トップクラスの合格率！

教員採用試験（小学校・中学校・高等学校）

現役合格率 81.6%*

合格者62名／志望者76名

教員志望者における割合

公立保育職（幼稚園教諭・保育士）

現役合格率 83.3%*

合格者35名／志望者42名

公立保育職志望者における割合

［2021年度卒業生］教員・保育職正規採用結果

公立保育職	私立保育職	公立小学校教諭	公立中学校教諭
35名	36名	53名	数学4名・音楽1名

※人数は2021年度卒業生で非常勤を含まない正規採用者の実人数
※本学部は2つの専修とも幼稚園教諭一種免許・小学校教諭一種免許が取得できるため、学部全体での数値を表記

資格取得実績

看護師
第111回 看護師 国家試験合格率 99.0%
合格者103名／受験者104名
受験資格取得者全員が受験※1

保健師
第108回 保健師 国家試験合格率 100%
合格者15名／受験者15名
受験資格取得者全員が受験※1

管理栄養士
第36回 管理栄養士 国家試験合格率 95.7%
合格者112名／受験者117名
卒業生数〈受験資格取得者〉117名※1

社会福祉士
社会福祉士 国家試験 合格率 73.4%
合格者54名／受験者72名※2

※1. 2021年度卒業生　※2. 2017~2021年卒業生 福祉系大学等ルートで受験者10名以上の新卒受験者

大学 人事が見る大学イメージで、本学が東海・北陸地域の第10位

日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが実施した、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査で、本学が東海・北陸地域で第10位（私立大学の中では第2位）になりました。

この調査は、全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者に、新卒採用した学生イメージを評価。「行動力」「対人力」「知力・学力」「独創性」の4つの項目でアンケートを行ったものです。

本学では、キャリア育成に3つの側面（キャリア教育＜授業＞、キャリア支援＜講座など＞、体験学習＜交流会など＞）からアプローチし、それらを有機的に機能させながら、入学時から卒業時まで一貫してキャリア意識の醸成を図ってきました。学生のキャリア育成に関して、理論と実践を融合させて、大学全体として、組織的、体系的に社会人基礎力を育成してきた成果ではないでしょうか。

高等学校 テニス部が愛知県高校総体テニス競技個人戦でインターハイ出場！

2022年度愛知県高等学校総合体育大会テニス競技の個人戦が東山公園テニスセンター（名古屋市天白区）で行われました。

5月14日（土）、15日（日）にはシングルス、5月21日（土）、22日（日）にはダブルスが行われ、シングルスでは山本未来さん（3年）が準優勝、ダブルスでは山本未来さん（3年）・高田知穂さん（2年）が優勝し、6月に愛知県豊田市で行われる東海総体と8月に高知県で行われるインターハイの出場権を獲得しました。山本未来さんは昨年に引き続き、ダブルス2連覇です。

中学校 3年ぶりにオープンスクールを開催

6月4日（土）、椙山女学園中学校のオープンスクールを開催し、511組の事前申込をいただいた方にご来場いただきました。

椙山を実感するチャンスとして、楽しみながら教科本来の面白さを感じる授業体験では、7科目の参加型授業を展開し、参加した小学生は興味深く先生の話を聞き、先輩たちと交流を深めることができました。また、クラブ活動の見学や参加体験のほかにも、校内を自由に見学いただき、国際交流や総合「人間になろう」などの教科展示、生徒会企画や制服パネル、フォトスポット撮影などの企画も実施。図書館では、入試個別相談も実施されました。

小学校 ティンガティンガ交流会を開催しました

毎年の恒例となったアフリカン現代アート「ティンガティンガ・アート」の交流会が5月18日(水)に行われました。今回は、タンザニアの国獣であるキリンを描いたティンガティンガ・アートとアフリカの花について紹介した新刊「アフリカに咲く熱帯の花、笑顔の花-ワイルドフラワー120」が寄贈されました。お礼に児童から感謝の気持ちを込めて本校オリジナルの「椙ニコグッズ」と手作りのオブジェをプレゼントしました。これらは、タンザニアの小学校の子どもたちに届けられ、両校の交流の架け橋となっています。

続いて行われたアート体験では、4年生の児童80名が、ティンガティンガ・アートを制作。6色の絵の具を使って自分の色を作り出し、キリンの絵に色を塗りました。自由な発想でティンガティンガ・アートを体感。最後に自分のサインを加え、作品を仕上げました。

※ティンガティンガ・アートとは、タンザニアが発祥のアフリカを代表する絵画スタイルです。

幼稚園・食育推進センター 大きく育つかな?!幼稚園で「『なると金時』さつまいも栽培教室」

6月6日(月)、椙山女学園大学附属幼稚園の年長児を対象に、徳島県名古屋事務所による「『なると金時』さつまいも栽培教室」を行いました。

「なると金時」は、徳島県北東部地域の砂地畑で栽培されている徳島県のトップブランドのさつまいもです。この教室は、徳島県の「なると金時」について学び、苗植え体験を通じ、子どもたち自らが育て、触れることで、食べ物への関心や意欲を高めることを目的に実施しました。教室では、徳島県関西本部の大西氏から、徳島県の野菜やさつまいもの種類、苗の植え方や苗が土の中でどのように成長するかについての授業がクイズ形式で行われ、園児たちは大好きなクイズに挑戦しながら楽しく学びました。当日はあいにくの雨で苗植えをすることはできませんでしたが、お手本を見せていただき、晴天となった翌日に苗植え体験をしました。園児たちは、「苗のおしりは土に埋め、苗の先と葉は土の外に出す」苗植えのポイントを思い出しながら、友達と協力して丁寧に植えることができました。秋の収穫を楽しみに、水やりや草取りをしながら大切に育てていきます。

幼稚園・保育園 児童虐待防止に関する研修会を開催

5月30日(月)、愛知県千種警察署少年係と名古屋中央児童相談所の方にお越しいただき、幼稚園と保育園の教職員を対象に「児童虐待防止」に関する研修会を開催しました。

今回の研修会を通して、児童虐待の定義、虐待を認知した場合の対応、警察や児童相談所との関わり方、また、教職員としての虐待通告義務、子どもを守る者としての責務などを学びました。

こども園 夏の遊び始まり会をしました!

7月4日(月)、こども園で夏の遊び始まり会を行いました。

疫病退散の妖怪のあまびえさまからお手紙が届いていた子どもたちは、この日を楽しみにしていました。

はじめに、色水遊びを体験し、どんな色になるか想像力をはたらかせました。続いて、事前に覚えてきた水遊びの約束事の5つを皆で確認していると、あまびえさまが登場!各クラスの代表の子どもたちは、あまびえさまからお札を受け取り、5つを守って楽しく遊ぶことを約束しました。

クラスにお札を飾り、子どもたちの夏の遊びの安全を見守ってくれています。

保育園 ミニミニ音楽会を開催

6月1日(水)、保護者ボランティアによる『ミニミニ音楽会』をすぎのこホールで開催しました。

ピアノ、バイオリンの生演奏と素敵な歌声に釘づけになり、知っている歌だけでなく、初めて聞く曲にも体を揺らしたり、振りをつけたりして楽しんでいました。また、絵本『はらぺこあおむし』の歌に合わせあおむしが登場すると、「わぁ!」と声が上がって、うれしそうにお話の最後まで見ていました。

園児にとって、思い出に残る音楽会になりました。

理事会・評議員会の議題・報告事項（4月～6月）

4月 4月臨時理事会（R4.4.1）

APRIL

議題

・理事の業務に関する件
・理事長報酬に関する件
・慰労金に関する件
・特別顧問に関する件
・椙山女学園公印取扱規程の一部改正に関する件
・その他

報告事項

・寄附行為第8条第1項第1号理事及び同条同項第2号理事の選任結果について
・その他

4月 定例理事会（R4.4.28）

APRIL

議題

・学部改組に関する件
　・国際コミュニケーション学部、人間関係学部及び文化情報学部の改組に係る学部学科名称の変更に関する件
　・事前相談等スケジュール変更に関する件
・椙山女学園資金運用規程に基づく運用責任者に関する件
・椙山女学園大学附属椙山こども園給与規程の一部改正に関する件
・椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部改正に関する件
・2023年度募集要項に関する件（大、高、中、小、幼）
・人事に関する件
・その他

報告事項

・椙山女学園資金運用規程に基づく運用担当者の指名について
・椙山女学園大学学則について（修正）
・椙山女学園大学教職課程委員会規準の一部改正について
・大学改革アクションプラン2022について
・上海師範大学との学術交流協定及び学生交流協定の更新について
・2022年度入試状況（大、高、中、小、幼、こ、保）について
・令和3年度就職内定・進路状況について
・寄付について
・人事について
・その他

5月 定例理事会（R4.5.20）

MAY

議題

・令和3年度事業報告に関する件
・令和3年度決算に関する件
・令和4年度資金運用方針に関する件
・椙山女学園大学附属椙山こども園給与規程の一部改正に関する件
・椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部改正に関する件
・その他

報告事項

・令和3年度補助金について
・令和4年度科学研究費助成事業交付者一覧について
・令和3年度社会連携センター事業収支報告について
・椙山女学園大学内部質保証推進機構規準の制定について
・椙山女学園大学運営会議規準の一部改正について
・寄付について
・人事について
・その他

6月 定例理事会（R4.6.17）

JUNE

議題

・学部改組に関する件
・外部理事の兼務に関する件
・椙山女学園大学教養教育科目等の改革に関する件
・育児・介護休業法改正に伴う関係規程の一部改正に関する件
　・育児休業等に関する規程の一部改正に関する件
　・介護休業等に関する規程の一部改正に関する件
　・期末手当に関する規程の一部改正に関する件
・人事に関する件
・その他

報告事項

・令和4年度資金運用計画について
・名古屋市敬老パス交付対象者の通勤手当について（通達）
　非常勤講師等の名古屋市敬老パス対象区間の交通費について（通達）
・2022年度オープンキャンパス等来場者数（大・中）について
・寄付について
・人事について
・その他

5月 定期評議員会（R4.5.23）

MAY

議題

・令和3年度事業報告に関する件
・令和3年度決算に関する件
・その他

学園規程類の制定・改廃

4月 4月通知分（全1件）

APRIL

表　題	区分	説　明	制改廃日	施行日
椙山女学園大学教職課程委員会規準の一部を改正する規準	一部改正	①教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令（令和3年文部科学省令第25号／令和3年5月7日）により、本学の教職課程の自己点検・評価を教職課程委員会において実施することとなったため、教職課程委員会規準に明記する。 ②令和4年度から教育学部に特別支援学校教諭一種免許課程が設置されることに伴い、「特別支援教育に関する科目」を追加する。また、これまで「栄養に係る教育に関する科目」は非常勤講師が担当してきたが、今後専任教員が担当する可能性もあるため、条文に追加する。	R4.4.19	R4.4.19

5月 5月通知分（全4件）

MAY

表　題	区分	説　明	制改廃日	施行日
椙山女学園大学内部質保証推進機構規準	制定	椙山女学園大学（大学院を含む。）における教育、研究、社会貢献等の諸活動について、従来の内部質保証の推進を担っていた大学運営会議から独立し、大学協議会の付託機関として「椙山女学園大学内部質保証推進機構」を設置することとなったため、必要な事項を定める。	R4.5.17	R4.5.17
椙山女学園大学運営会議規準の一部を改正する規準	一部改正	「椙山女学園大学内部質保証推進機構規準」の制定に伴い、全学的な内部質保証の推進を内部質保証推進機構が中心となって進めていくこととなったため、関係条項を改める。	R4.5.17	R4.5.17
椙山女学園大学附属椙山こども園給与規程の一部を改正する規程	一部改正	名古屋市の民間社会福祉施設職員給料表等の改定を受け、別表第5の期末勤勉手当に係る規定を改める。	R4.5.20	R4.5.20（R4.4.1適用）
椙山女学園大学附属保育園給与規程の一部を改正する規程	一部改正	名古屋市の民間社会福祉施設職員給料表等の改定を受け、別表第5の期末勤勉手当に係る規定を改める。	R4.5.20	R4.5.20（R4.4.1適用）

6月 6月通知分（全2件）

JUNE

表　題	区分	説　明	制改廃日	施行日
名古屋市敬老パス交付対象者の通勤手当について（通達）	廃止制定	名古屋市敬老パスの取扱い方法が変更されたことに伴い、本学園に勤務する職員の通勤手当について整理し、取扱いについて必要な事項を定める。	R4.6.13	R4.6.13（R4.4.1適用）
非常勤講師等の名古屋市敬老パス対象区間の交通費について（通達）	制定	名古屋市敬老パスの取扱い方法が変更されたことに伴い、本学園に勤務する非常勤講師等の名古屋市敬老パス対象区間の交通費について整理し、取扱いについて必要な事項を定める。	R4.6.13	R4.6.13（R4.4.1適用）

人事

令和4年7月1日までの人事案件

大学

名誉教授称号授与

（大学） 前学長	後藤 宗理	R4.4.1
（国際） 元教授	小川 雅魚	R4.4.1
（国際） 元教授	木村 隆	R4.4.1
（人関） 元教授	杉藤 重信	R4.4.1
（文情） 元教授	上嶋 正博	R4.4.1
（教育） 元教授	宮川 充司	R4.4.1

採用

（看護） 助手	濵島 麻衣	R4.5.1～R5.4.30

中学校

採用（新規）

養護教諭（高等学校養護教諭兼務）	深尾 幸恵	R4.5.1～R4.10.7

兼務

高等学校教諭	荒川 尚美	R4.4.1～R5.3.31
高等学校教諭	刑部 有里	R4.4.1～R5.3.31
高等学校教諭	加藤 史	R4.4.1～R5.3.31
高等学校教諭	中村 暢宏	R4.4.1～R5.3.31
高等学校教諭	小川 奈保子	R4.4.1～R5.3.31
高等学校養護教諭	山森 早希子	R4.4.1～R5.3.31

顕彰

学園創立117周年永年勤続者表彰

40年	冨田 和子	生活科学部
40年	谷口 和雄	高等学校
40年	竹田 浩康	財務管財部
35年	横家 純一	国際コミュニケーション学部
35年	中西 由里	人間関係学部
35年	平野 順雄	人間関係学部
35年	原田 明人	企画広報部
35年	北島 和徳	広報課
30年	村上 心	生活科学部
30年	田村 雅夫	人間関係学部
30年	東 珠実	現代マネジメント学部
30年	遠藤 史生	高等学校
30年	斎藤 佳枝	高等学校
30年	石川 朝子	小学校
30年	岩瀬 賢司	生活科学部事務室
30年	小間 祐子	現代マネジメント学部事務室
30年	山田 華奈子	管財営繕課
25年	市川 敏	高等学校
25年	鈴木 雅子	高等学校
25年	田中 洋美	高等学校
25年	中林 真吉	高等学校
25年	本並 和美	高等学校
25年	今井 聡子	中学校
25年	川隅 知美	図書館課
25年	新田 昌子	入試課
25年	椙山 ちはる	キャリア支援課
20年	加藤 昌彦	生活科学部
20年	滝本 成人	生活科学部
20年	内藤 通孝	生活科学部
20年	株本 千鶴	人間関係学部
20年	鄭 麗芸	文化情報学部
20年	野﨑 健太郎	教育学部
20年	加藤 孝司	中学校
20年	伊藤 准子	幼稚園
20年	浅田 夏希	総務課
15年	阿部 順子	生活科学部
15年	吉田 あけみ	人間関係学部
15年	栃窪 優二	文化情報学部
15年	樋口 謙一郎	文化情報学部
15年	磯部 錦司	教育学部
15年	小杉 裕子	教育学部
15年	坂本 徳弥	教育学部
15年	白井 朗	教育学部
15年	竹内 聖彦	教育学部
15年	深谷 和義	教育学部
15年	宮田 俊雄	教育学部
15年	清 葉子	教育学部
15年	朝日 敦子	高等学校
15年	中川 香	高等学校
15年	西村 文宏	中学校
15年	八田 一平	中学校
15年	伴野 茜	中学校
15年	山田 千恵子	人事課
15年	荒木 希衣子	学生課
10年	河合 潤子	生活科学部
10年	谷口 功	人間関係学部
10年	手嶋 雅史	人間関係学部
10年	佐川 佳之	人間関係学部
10年	三浦 隆宏	人間関係学部
10年	見田 隆鑑	文化情報学部
10年	渡邉 康	教育学部
10年	安本 卓也	看護学部
10年	川野 早紀	高等学校
10年	船橋 曜子	高等学校
10年	松﨑 かおる	高等学校
10年	神田 ゆか	中学校
10年	吉田 政彦	中学校
10年	高橋 有沙	学生課
10年	酒井 江吏加	入試課

訃報

旧職員	事務職員	浅井 信義	R4.6.3

NEW FACE ニューフェイス

中学校 養護教諭（期限付） 深尾 幸恵（フカオ ユキエ）

椙山女学園中学校の保健室に、武富先生の産休代替えで5月より勤務させて頂くことになりました。女子中学生の皆さんと学校に早く慣れるよう、励みたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

役員・評議員・組織

役員・評議員等	
理事長	椙山　泰生
理事	黒田　由彦　椙山　泰生　冨田　明美　佐々　雅代　川﨑　泰資 米田　公則　重冨　亮　椙山 美恵子　深谷　和義
監事	篠﨑　桂子　兵藤　平
評議員	甲斐　進一　大森　隆子　内藤　通孝　長澤　唯史　本山　昇 田所　光男　山口　雅史　脇田　泰子　黒田　達朗　竹内　聖彦 杉浦 美佐子　佐藤　厚子　山茂　正憲　高橋 万希子　水野　嘉基 相川　保敏　山中　文　小林　豊子　上野 智恵子　吉川 ひとみ 竹田　浩康　加藤　元子　杉野　明子　田村　尚子　伊佐次 雅子 佐々　雅代　川村　友子　米澤　弘和　篠原　幸子　金子　紀子 北村　忠和
特別顧問	森棟　公夫
顧問	椙山 美恵子
参与	小林　嗣明

センター長等	
総合クリエイティブセンター総長	椙山　泰生
オープンカレッジセンター長	藤岡 阿由未
学園情報センター長	米田　公則
椙山人間学研究センター長	甲斐　進一
椙山女学園食育推進センター長	内藤　通孝
椙山女学園監査室長	小澤　英二
椙山歴史文化館長	椙山 美恵子

事務職員（部長級以上）	
事務局長	小林　嗣明
総務部長	吉川 ひとみ
企画広報部長	原田　明人
財務管財部長	竹田　浩康
学務部長	堀田 圭一郎

大学

学長・学長補佐	
学長	黒田　由彦
学長補佐	内藤　通孝
	長澤　唯史

センター長等	
図書館長	佐藤　厚子
入学センター長	栃窪　優二
副入学センター長	石原　久代
国際交流センター長	笠原　正秀
大学情報教育開発センター長	米田　公則
キャリア育成センター長	吉田 あけみ
社会連携センター長	藤岡 阿由未
学生相談室長	李　敏子
臨床心理相談室長	中西　由里

研究科長	
生活科学研究科長	臧澄　美仁
人間関係学研究科長	李　敏子
現代マネジメント研究科長	東　珠実
教育学研究科長	國井　修一

生活科学部	
生活科学部長	本山　昇
管理栄養学科主任	大口　健司
生活環境デザイン学科主任	滝本　成人

国際コミュニケーション学部	
国際コミュニケーション学部長	田所　光男
国際コミュニケーション学部主任（国際言語コミュニケーション学科担当）	水島　和則
国際コミュニケーション学部主任（表現文化学科担当）	藤岡 阿由未

人間関係学部	
人間関係学部長	山口　雅史
人間関係学科主任	谷口　功
心理学科主任	加藤　容子

文化情報学部	
文化情報学部長	脇田　泰子
文化情報学科主任	福永　智子
メディア情報学科主任	羽成　隆司

現代マネジメント学部	
現代マネジメント学部長	黒田　達朗
現代マネジメント学科主任	柴　由花

教育学部	
教育学部長	竹内　聖彦
教育学部主任（保育・初等教育専修担当）	伊藤　博美
教育学部主任（初等中等教育専修担当）	伊藤　仁一

看護学部	
看護学部長	杉浦 美佐子
看護学科主任	早川　幸博

高等学校・中学校

校長	深谷　和義
高等学校・中学校教頭	山茂　正憲 高橋 万希子
中学校・高等学校教頭	水野　嘉基

小学校

校長	相川　保敏
教頭	松原　道晴
アフタースクール長	石川　浩之

幼稚園

園長	山中　文
教頭	小林　奈美

こども園

園長	小林　豊子
副園長	三田村 尚栄
主幹保育教諭	和波　元子

保育園

園長	上野 智恵子
主任保育士	小栗　真紀

令和3年度椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名（順不同）

本多　政弘 様
大嶽　恵美 様
相羽　健司 様
阪野　礼奈 様
久野　隆久 様
村松　邦治 様
森　孝敏 様
榊原 ヒサ子 様
鈴木　征夫 様
吉田　潤子 様
上田　泰爾 様
山田 まゆ果 様
浅野　幹雄 様
山口　均 様
堀川　順子 様
青山　英世 様
川森　俊人 様
村田　勝美 様
杉山　哲朗 様
影山　剛 様
宮地　伸夫 様
吉住 吾一郎 様
小林　弘隆 様
吉田　弘幸 様
服部　尚子 様
銭谷　匡 様
武田　尚子 様
平岡　光 様
近藤　正代 様
横井　祐二 様
遠藤　聖奈 様
小川 ひとみ 様
佐倉　史朗 様

恒川　由季 様
野澤　健一 様
小林　欣興 様
本間　隆文 様
川窪　悠月 様
田口　克也 様
伊藤　公一 様
小島 賢一朗 様
小川　裕久 様
風岡　尚樹 様
山田　美徳 様
砂坂 久美子 様
古田　裕之 様
三浦 幸一郎 様
川路　信之 様
田中　康晴 様
水野　正人 様
石井　秀孝 様
雨宮　秀寿 様
加藤　雅大 様
浅井　修一 様
大河内　明 様
清水　昭宏 様
植村　信貴 様
伊藤　真 様
山本　記子 様
山出　健 様
安藤　啓 様
明城　誉昌 様
成田　真吾 様
伊藤　和夫 様
服部　安展 様
加野　尚生 様

都築　佐織 様
松本　陽一 様
新津　忠直 様
株式会社藤大 代表取締役 姜　宏海 様
小坂井 俊司 様
深谷　健 様
柴田　真宏 様
小林 久美子 様
拝郷　直人 様
有馬　達也 様
新堂　樹里 様
山本バリル祐歌 様
村山 浩二郎 様
森谷　学 様
鹿島田 敏郎 様
熊谷　立男 様
松岡　英紀 様
関根　善大 様
宮本 慎太郎 様
起田　三志 様
木浦　治 様
三浦　一昌 様
下地　浩二 様
石川　正行 様
今津　浩喜 様
有限会社ココカラ 様
天野　英生 様
齋塲 ダイア 様
小山 千江子 様
山下 栄里子 様
椎村　公彦 様
小松　拓朗 様
榊原　基哲 様

小出　伸哉 様
寺西　好治 様
竹内　政繁 様
長江　博司 様
山本　公徳 様
山口　重樹 様
鈴木　周一 様
横山　和正 様
伊藤　健一 様
長谷川 恭子 様
杉田　浩美 様
篠﨑　桂子 様
寺師　稚人 様
渡邉　美香 様
名倉　依里 様
井上 加江子 様
小林　美樹 様
加藤 みき子 様
内田　玲子 様
加野 三保子 様
長坂 仁智子 様
杉野　明子 様
山口 早智子 様
渡邉　博幸 様
根村 佐和子 様
梅崎　知里 様
佐々　雅代 様
松岡　和子 様
溝口　義幸 様
丸山　潤子 様
市野　淑代 様
奥野　悦弥 様

その他
匿名180名

令和3年4月から令和4年3月までにご寄付いただいた方を掲載しております。
一部、特殊文字や外字については、代替表記しています。

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

学園創立117周年を迎えて
令和4年度名誉教授称号記授与式
椙山女学園 令和3年度事業報告書
椙山女学園の財政
学園ニュース
理事会・評議員会の議題・報告事項
学園規定類の制定・改廃
人事・顕彰・訃報・NEW FACE
役員・評議員・組織
椙山女学園教育振興基金 寄付者ご芳名
学園研究費助成金・学園行事予定・編集後記

学園研究費助成金

令和4年度学園研究費助成金(A)採択一覧表

学部	職位	代表者氏名	区分	研究課題	採択額(千円)
生活	准教授	保田　倫子	共同	地域特産品の持続可能な発展を目指して―碧南産にんじんに着目した食品化学・建築計画学的アプローチ―	1,000
国際	教授	広瀬　正浩	共同	デジタル化を利用した古典籍などによる図書館の活性化と新しい国語教育の方法論、教育法の確立と展示会(椙山歴史文化館)	970
現マ	教授	植林　茂	個人	なぜ銀行は破綻したか―中部銀行破綻についての経営と行政対応に関するオーラル・ヒストリー手法による分析―	400
現マ	教授	柴　由花	共同	公益的な団体が収益事業を行う場合の固定資産税の非課税措置について	830
現マ	准教授	野崎　祐子	共同	超高齢社会における女性のキャリア形成と女子大学・大学院の役割	1,800
				合計	5,000

令和4年度学園研究費助成金(B)採択一覧表

学部	職位	代表者氏名	区分	研究課題	採択額(千円)
生活	教授	石原　久代	個人	2色配色の面積比が色彩調和に及ぼす影響	300
生活	准教授	河合　潤子	共同	尾張・三河の小麦生産ときしめんの関連性	300
生活	助教	川口　香子	個人	サードプレイスとなるコミュニティー拠点の使われ方に関する研究	300
生活	教授	加賀谷 みえ子	共同	女子大生における日常の身体活動と体格・体組成に関する研究	300
生活	教授	村上　心	共同	フィリピンのスラムクリアランスで展開する木造建築の開発	300
国際	教授	伊藤　信博	個人	名古屋造形大学所蔵石井染織所染織型紙研究とジャポニスム	300
国際	教授	笠原　正秀	個人	コロナ禍における本学の学生の「留学」や「海外研修」に関する意識調査	300
国際	准教授	小林　かおり	共同	地域連携と高大連携から考える多文化共生：豊田市を事例に	300
人関	教授	五百部　裕	個人	鹿児島県トカラ列島口之島に生息する野生化牛の社会生態学的研究	280
人関	准教授	舛田　亮太	個人	ひきこもり型の解離に関する調査研究	300
現マ	教授	石井　雅治	個人	自然擬座標を用いた深層学習のメカニズムの解析	300
現マ	准教授	苗　馨允	個人	国際財務報告基準(IFRS)の適用が日本企業の会計情報の質に与える影響	300
現マ	講師	山中　稚菜	個人	アメリカ民事訴訟法における判決効拡張論と手続保障	300
教育	教授	深谷　和義	個人	中学校と高等学校におけるプログラミング教育内容接続の教科書での検証	300
教育	准教授	松村　齋	共同	エンタメ技術を活用した重症心身障害児の支援	300
教育	教授	山中　文	共同	幼児期におけるプログラミング教育の導入に関する基礎的研究	300
看護	講師	竹井　留美	共同	看護臨地実習における経験が就職におよぼす影響	178
				合計	4,958

主な学園行事予定8月～10月

日時	曜日	行事	主催・対象
8/6・7	土・日	オープンキャンパス	大学
8/27	土	AO型入試説明会	小学校
8/31	水	始業式	高・中
9/1	木	始業式	小・幼
9/3	土	入園希望者説明会	幼稚園
9/9・10	金・土	文化祭	高等学校
9/11	日	ステップアップオープンキャンパス	大学
9/14	水	スポーツデー	高等学校
9/15	木	体育祭	中学校
9/15	木	おじいちゃんおばあちゃんの会	保育園
9/17	土	推薦入試説明会	高等学校
9/17	土	入試説明会	小学校
9/30・10/1	金・土	文化祭	中学校
10/1	土	2023年度入園受付・面接	幼稚園
10/1	土	運動会	こども園
10/5	水	お話・手品の会	保育園
10/8	土	運動会	幼稚園
10/15・16	土・日	大学祭	大学
10/22	土	小さな運動会	保育園
10/27	木	ハロウィーン	こども園
10/27	木	ハロウィーン	保育園
10/29	土	学校説明会	高等学校
10/29	土	学校見学会	中学校

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響で、一昨年は開催を中止し、昨年は規模を縮小して開催したオープンキャンパス、オープンスクールが、今年は各学校とも以前のような対面による通常開催となりました。もちろん感染防止対策を行って実施されますが、本学をめざす受験生に椙山女学園の各学校を体感していただける機会を提供できることは喜ばしいことです。大学では、6月のオープンキャンパスが初めて開催されました。大学の予測より多くの来場者があり、担当者は懸命に対応しました。久しく見ることがなかったこともありますが、新鮮にさえ映る光景に、学園がコロナ禍のなか、本来の様子を戻りつつあることを実感します。

ご意見・ご質問などはこちらへお寄せください。　広報課(kouhou@sugiyama-u.ac.jp)

2207-1-750